厚岸町議会 令和5年度各会計予算審査特別委員会会議録

令和5年3月10日

午後2時16分開会

- 委員長（竹田委員） ただいまから、令和5年度各会計予算審査特別委員会を開会いたします。

それでは、早々審査を進めてまいります。初めに、議案第2号 令和5年度厚岸町一般会計予算を議題といたします。

予算書1ページ、第1条、歳入歳出予算から審査を進めてまいります。

2ページから6ページは、第1表 歳入歳出予算です。34ページ、35ページは、事項別明細書です。

36ページ、歳入から進めてまいります。進め方は、款、項、目により進めてまいります。

1 款町税、1 項町民税、1 目個人。

(なし)

- 委員長（竹田委員） 2 目法人。

(なし)

- 委員長（竹田委員） 2 項 1 目固定資産税。

3 番、室崎委員。

- 室崎委員 ここで、予算説明のときにですね、少し増えるという話があって、新築家屋による増というのがありますという、たしか説明があったのですがね、今どうなのか、ウッドショックなどという言葉もあるぐらいで、材木はすごく値上がりしてきていますしね、3、4年前の坪単価よりも倍以上になっているというような話もちろちら聞くのですよ。

そういう中で、新築家屋が増えるから固定資産税の収入は増を見込んでいいのですということは、何か根拠があって、そんなものに関係なく増えるのですという何かがあるのでしょうか。

- 委員長（竹田委員） 税務課長。

- 税務課長（鈴木課長） お答えさせていただきます。

この新築家屋の増というものは、令和4年中に新築された家屋ですね、こちらが木造家屋で18棟、そのうち専用住宅は9棟ありました。また、非木造につきましては、鉄

骨でありますけれども、全部で9棟、専用住宅は1棟。また内訳としましては、そのほかに大型牛舎、これが4棟建っております、さらには共同住宅も3棟建っております。この部分が増えるというような計算になっております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 もう一度確認します。令和4年、昨年中に建ったものがこれだけあって、それに対する固定資産税だから、増えるも何も、ここのところでもって、既存の事実があるからなのだよという意味なのですね。これからどんどん建つだろうという話ではないのだ。すみません取り違いました。よく分かりました。結構です。

●委員長（竹田委員） 他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進めます。

2目国有資産等所在市町村交付金。

3番、室崎委員。

●室崎委員 ここで、やっぱり同じような説明の中で、土地の減少による交付見込額という言い方で、土地の減少という言葉が入っているのですが、国有資産等所在町村交付金で、土地が減少するというのは、どういう意味なのでしょう。

●委員長（竹田委員） 税務課長。

●税務課長（鈴木課長） お答えさせていただきます。

こちらにつきましては、国有資産、さらには公有財産で、北海道が持っている土地がありまして、その固定資産分の交付金でございますけれども、昨年ですね、北海道の土地において一部売却があった、そのことによって、土地の面積が減少したということで、交付金が1万2,000円減額になっております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 ごめんなさい。ちょっと基礎知識がないので、とんちんかんな質問をしているかもしれないので、お許しいただきたいのだけれども、表題は国有資産となっているのですよね。道の持っている土地というのは、国有資産になるのですか。

●委員長（竹田委員） 税務課長。

●税務課長（鈴木課長） お答えさせていただきます。

こちらの国有資産等には、国のほうの持っている国有林、さらには北海道の持っている道有林、あとは警察等の建物、こういうものが含まれての計算となります。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進めます。

3項軽自動車税、1目環境性能割。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目種別割。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4項1目たばこ税。

5番、南谷委員。

●南谷委員 たばこ税でお伺いをします。

93万8,000円、対前年比ダウンなのですよね。私も肩身を狭くして、たばこを吸っているのですけれども、また値上げをするというような話も聞こえてきます。今回、5%ダウンの計上なのですよ。この辺の計上の仕方について、考え方を説明してください。

●委員長（竹田委員） 税務課長。

●税務課長（鈴木課長） お答えさせていただきます。

考え方につきましては、今年度の見込みの本数、課税本数、それから減少させるか、さらには増やすかということで考えていきますけれども、やはり近年の人口減少もありますけれども、禁煙志向は強まっているということもありまして、令和4年度の見込みから3%本数を減らして算定した金額でございます。

たばこの金額につきましては、令和3年に最後の税制改正があって、それからは今のところですね、たばこの税額が上がるというのは、今のところ私のほうには情報はまだ入ってございません。

●委員長（竹田委員） 5番、南谷委員。

●南谷委員 そうですか、分かりました。前年の実績からたばこを吸う人を3%、もっと減ってくれればいいけれども、僕はやめる気はないのですけれども。

そうして、今言われた、今のところないよと。全くの風評かもしれないけれども、また、たばこ10月頃から上がるのだよねという風評。今のところ、では、そういうような見通しというのはないということですね。

●委員長（竹田委員） 税務課長。

●税務課長（鈴木課長） 新聞等報道であったかもしれませんが、正式な通達等は、私のほうには入ってまだございません。そういうことをご理解願います。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進めます。

6項1目都市計画税。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2款地方譲与税、1項1目地方揮発油譲与税。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2項1目自動車重量譲与税。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3項1目森林環境譲与税。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3款1項1目利子割交付金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4款1項1目配当割交付金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 5款1項1目株式等譲渡所得割交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 6款1項1目法人事業税交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 7款1項1目地方消費税交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 8款1項1目ゴルフ場利用税交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 9款1項1目環境性能割交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 10款1項1目国有提供施設等所在市町村交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 11款1項1目地方特例交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 12款1項1目地方交付税。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 13款1項1目交通安全対策特別交付金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 14款分担金及び負担金、2項負担金、1目民生費負担金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 2目農林水産業費負担金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 15款使用料及び手数料、1項使用料、1目総務使用料。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 2目民生使用料。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 3目衛生使用料。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 4目農林水産業使用料。
5番、南谷委員。

- 南谷委員 農業使用料、農業水道使用料1,838万6,000円、ここでお尋ねをさせていただきます。

令和4年度の当初1,951万1,000円、前年度の当初予算の計上でございます。これを比較しますと、112万5,000円のダウンになっていますよ、今年度。このダウンの内容について説明をしてください。

- 委員長（竹田委員） 水道課長。

- 水道課長（高瀬課長） お答えいたします。

農業水道使用料、主に若松地区になりますが、令和4年から農家3件くらい離農しておりまして、使われなくなったことによるものが大きな要因かなということに捉まえています。

- 委員長（竹田委員） いいですか。
他に、ございませんか。

(な し)

- 委員長（竹田委員） なければ、進みます。
5目商工使用料。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 6目土木使用料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 7目教育使用料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 2項手数料、1目総務手数料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 3目衛生手数料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 4目農林水産業手数料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 6目土木手数料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 7目教育手数料。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 3項1目証紙収入。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 16款国庫支出金、1項国庫負担金、1目民生費国庫負担金。
(なし)
- 委員長（竹田委員） 2目衛生費国庫負担金。
(なし)

●委員長（竹田委員） 2項国庫補助金、1目総務費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目民生費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目衛生費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4目農林水産業費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 5目商工費国庫補助金。

2番、石澤委員。

●石澤委員 新規で、自然環境整備交付金と出ているのですけれども、これはどういうふうな形になるのですか。内容を教えてください。

●委員長（竹田委員） 観光商工課長。

●観光商工課長（諸井課長） お答えさせていただきます。

歳出のほうの239ページにあるのですけれども、こちらのほうで、原生花園あやめヶ原整備事業、これが4,436万3,000円、そして末広海岸広場整備事業、これが1,024万1,000円ということで、この二つの事業の整備をするのですけれども、その国から自然環境整備交付金という形で事業費の45%ということで入ってくるお金でございます。国定公園のエリアの中の施設整備ということで、その交付金でございます。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

6目土木費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 7目消防費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 8目教育費国庫補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3項委託金、1目総務費委託金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目民生費委託金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4目土木費委託金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 17款道支出金、1項道負担金、1目民生費道負担金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目衛生費道負担金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2項道補助金、1目総務費道補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目民生費道補助金。

3番、室崎委員。

●室崎委員 ここではちょっとお聞きしたいのですが、次のページのほうに行って、民生費道補助金の、節で言うと児童福祉費補助金ですか。その中に、多子世帯等の保育料軽減支援事業費補助金というのがあるのですね。これが、対象児童が増えたという説明があったのですが、そもそも、この制度というのはどのようなものなのか。そして、対象児童が増えるということは、その裏にどういう動きがあるのか。それを説明してい

ただきたい。

●委員長（竹田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

この事業につきましては、厚岸町につきましては、保育料につきましては、全世帯については無料というような形になっております。その中で、基本的に国のほうの制度としましては3歳以上の保育料が無料という形で、3歳未満の子どもにつきましては国の施策の中では基本的には有料という形になっておりまして、さらに、2子、3子に係る保育料につきましても、基本的にはその分、1子、2子、3子で、それぞれの保育料が設定されているところであります。

その中で、この内容につきましては、道の補助対象となる多子分の子どもの分の保育料をこの補助金で充当されるという形になっておりまして、この部分を、現在しんりゅう保育所、あつけし保育所で、子ども自体は減っている傾向にある中で、3歳未満の子どもの保育につきましては、ゼロ歳、1歳、2歳の利用する子どもの数が以前にまして増えている状況になっているところで、この補助金につきましては、金額が増えているという内容でございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 これは、例えば所得の制限があって、親御さんのほうの経済的な困窮度が増えてくるために、対象になる人が増えてくるといったような種類のものではないのですね。そののところが聞きたい。

それから、そうではなくて、もし全く数だけの問題だということであるならば、今いろいろなところから聞こえてくる厚岸町の子どもの生まれる数、出生数はどんどん減っていますよね。そういう中でもって、対象人数が増えてくるということになると、保育所に通わせてる率がぐんぐん上がっているということになるかなというふうにも思う。

それで、経済的要因でそうなるのか、それとも、保育所に今までやらなかった人もどんどんやろうとして率が上がるから対象者が増えるのか。その辺りどういうことなのか。そういう表面に出てきたのは対象者の数が増えただけなのだけれども、その後ろでどういうことが社会事象として起こっているのか。それをお聞きしたいのですよ。

●委員長（竹田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お話しいただいた中での、所得の状況によってということではなく、他に3歳以降の保育料が有料だったときには、3歳以降の保育料が所得に応じてある程度の負担があったというところでは、保育にかけるという前提はありましたが、利用しやすい、しづらいという状況があったと思います。さらに、3歳未満の子どもにつきましては、さらに保育料が高かったことから、負担が大きく利用させることができないというのが実態だったと思います。その中で、2人目、3人目の利用が、そこ

は所得の応じてという部分になりますが、2子、3子の部分については、補助制度を活用して保育料を安くしていたという利用の制度でありました。

今回、厚岸における児童が増えてきたという状況につきましては、それとは別に、単に保育料の負担がないということで、預けやすくなったというふうに認識しております。現状としましては、3歳以降の子どもにつきましては、保育所と幼稚園にほぼ全員が通っている状況なのですが、2歳、それから1歳につきましても、半数までとはいきませんが、かなりの数、以前にはいなかったくらい、2歳未満でいきますと倍以上利用している状況ということで、利用数が増えたという状況であります。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 よく分かりました。保育料に関しての経済的負担というものを厚岸町は取り払ったわけですね。そのために、必要とする人が皆、子どもを保育所に通わせることができるようになったと。厚岸町の政策が実を上げています。それが、こういうところにこのような数字になって表れてくると、そういうふうに解釈すればよろしいわけですね。

●委員長（竹田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） おっしゃるとおりでございます。

●委員長（竹田委員） 他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進めます。

3目衛生費道補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4目農林水産業費道補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 5目商工費道補助金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 6目土木費道補助金

(な し)

- 。●委員長（竹田委員） 7目消防費道補助金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 8目教育費道補助金。
2番、石澤委員。

- 石澤委員 ここで、地域スポーツクラブ活動体制整備事業等補助金というのがあるのですが、これはどのような補助金になるのですか。

- 委員長（竹田委員） 管理課長。

- 教委管理課長（田崎課長） さきに国庫補助金でも同じような内容が出ておりました。国庫と道費と、それぞれ入ってくるというものです。

地域スポーツクラブ活動体制整備事業等補助金ということで、国のほうは令和7年度中をめどにして、中学校の部活、こちらを地域移行をかけていこうというような目標を掲げております。休日の部活の地域移行ということですね。すなわち、今はほとんどが学校の先生の指導下の中、平日、もちろん土日も引くくめて部活の指導等を行っている実態にありますが、先生の働き方改革だとか、そういうような観点で、まず初めに、休日部分を地域に移行、すなわち地域で指導者を用意して、そこで部活動を進めていこうというような動きが出てきております。

これに向けて、厚岸町といたしましては、まず令和5年度中に、移行に向けての内容を協議する協議会的なものを立ち上げて、実際、部活動に参加している保護者の方や、もちろん指導をなさっていただいている学校関係者の方々、こういう方々を構成員といたしまして協議会を設置して、そして現状を把握するなり、どのような形で部活を地域移行していけばいいのかというようなことの議論をするための場を設けるといったようなことに対する経費ですね。すなわち、委員として参画してもらいますので、それらに関する報酬並びに事務的作業を進めていく事務経費、これらの部分に対して国費が3分の1、道費が3分の1、そして自治体負担が3分の1というような形で、事業のほうを令和5年度から進めていこうというようなことです。

ただし、まずは協議会の設置ということで議論をしていきますので、令和5年度中に部活の地域移行が始まるのかといったようなことではないと。取りあえずは、めどとして、令和7年度中までにそれらのことが実現できるように、まずは協議をする場を設けるといったような内容であります。

- 委員長（竹田委員） 2番、石澤委員。

- 石澤委員 そうしたら、今地域でいろいろ子どもたちのやっているスポーツありますよ

ね。クラブとしてやっているものもあるし、それから学校でやっている部活もある。これは中学校ということですがけれども、小学校でもやっている子どもたちもいると思うのですけれども、それも全部引くくめて、その中でそういう形を考えていくということですか。それとも、まずは中学校だけでやるということなのではないでしょうか。

●委員長（竹田委員） スポーツ課長。

●教委スポーツ課長（高橋課長） 小学校につきましては、スポーツ少年団というのも組織しておりまして、その指導者は、ほとんどが地域の方が指導されているということで、今回にはちょっと対象にならないのかなと思っております。

●委員長（竹田委員） 2番、石澤委員。

●石澤委員 部活は先生方も大変だということもあって、多分こういう方が出てきたと思うのですが、部活自体の、子どもたちも長時間やるというような弊害とかもありますよね。そういうのも含めて、いろいろなことで部活の在り方も、それから指導員の在り方も含めて、そしてその中でみんなで協議をして、どういう形がいいかというふうに決めていくというふうに思っているのですか。

●委員長（竹田委員） 管理課長。

●教委管理課長（田崎課長） 委員おっしゃるとおり、いろいろな内容について、やはり検討していく必要はあるだろうというふうに思っております。ですから、指導者をただ単に地域から集めるだけではなくして、運動の在り方、部活の在り方、そしてもちろん保護者の方にも様々な点で負担もかかっているという事実もありますので、それらを解消していくということも、一緒になっていろいろと考えていきたいなというふうに思っております。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

3項委託金、1目総務費委託金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目衛生費委託金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 4目農林水産業費委託金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 5目商工費委託金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 6目土木費委託金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 18款財産収入、1項財産運用収入、1目財産貸付収入。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 2目利子及び配当金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 2項財産売払収入、1目不動産売払収入。
5番、南谷委員。

- 南谷委員 1目の不動産売払収入、2節のその他不動産売払収入、立木売払代金1,794万1,000円、ここでお尋ねをさせていただきます。

令和4年度667万8,000円の計上でございました。そうすると、1,126万3,000円の増額、大幅アップでございます。恐らく町で行っている立木の売払いの関係で出てくるのだろうけれども、それ以外にもこれだけの数字があるわけでございますから、この内容について説明をしてください。

- 委員長（竹田委員） 環境林務課長。

- 環境林務課長（真里谷課長） 立木売払い代でございます。令和4年度当初で667万8,000円、新年度1,794万1,000円ということで1,126万3,000円の増ということでございます。これの主な要因でございますが、一般国道44号線の尾幌糸魚沢道路開設事業に係る高速道路関係の立木の売払いということで、約1,300万円程度計上しているところでございます。これが主な増の要因となります。

それ以外の町有林の立木につきましても、令和4年度より量としては少ないですが、

やはりカラマツ、トドマツ材の特に用材の部分については、約1.5倍程度価格が上昇しているという情報をつかんでおります。それらも含めて1,126万3,000円の増という計上をさせていただいているところでございます。

●委員長（竹田委員） 5番、南谷委員。

●南谷委員 そうすると、増えた主な理由は1,300万円、これが大きいと。だけれども、残念ながら町のほうは、面積というのかな、立木そのものの量は少なくなるよと。ただ価格で見ているよと、こういうことでしょうか。

●委員長（竹田委員） 環境林務課長。

●環境林務課長（真里谷課長） 委員おっしゃるとおりでございます。

●委員長（竹田委員） 他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

2目生産物売払収入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 19款1項寄附金、1目一般寄附金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 20款繰入金、1項基金繰入金、1目財政調整基金繰入金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目減債基金繰入金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目地域づくり推進基金繰入金。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4目まちおこし基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 6目環境保全基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 7目森林環境譲与税基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 8目ふるさと納税基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 9目特定防衛施設周辺整備調整交付金事業基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 10目再編関連訓練移転等交付金事業基金繰入金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 21款1項1目繰越金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 22款諸収入、1項延滞金加算金及び過料、1目延滞金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 2目加算金。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 3目過料。

(な し)

●委員長（竹田委員） 2項預金利子、1目町預金利子。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3項貸付金元利収入、2目ウタリ住宅改良貸付金元利収入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 6目十勝沖地震災害援護資金貸付金収入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4項受託事業収入、3目衛生費受託事業収入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 6項雑入、1目滞納処分費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 2目過年度収入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目雑入。

（な し）

●委員長（竹田委員） 23款1項町債、1目総務債。
5番、南谷委員。

●南谷委員 ここで、厚岸情報ネットワーク共聴巻き取り整備事業債2,200万円ですか、この内容について説明をしてください。

●委員長（竹田委員） 危機対策室長。

●危機対策室長（四戸岸室長） 厚岸情報ネットワーク共聴巻き取り整備事業債についてでございますけれども、歳出のほうの厚岸情報ネットワーク共聴巻き取り事業に係る経費に対して、過疎債を充当するものでございまして、この事業の内容でございますけれども、現在、地域の共聴組合が運営している苫多地区と門静地区の2地区の共聴組合で

視聴しているテレビの部分を町の光ケーブルによるテレビ受信に組み入れるという事業になります。町の光ケーブルでテレビ放送を視聴するために必要な光ケーブルの工事ですね、各戸に引き込む工事ですとか、あとは基幹設備となる配信設備というか、集中管理しているものがありますが、そちらに係る整備費用といったもので、事業費にいたしまして2,200万円の事業を歳出のほうで計上させていただいております。これに係る起債という内容でございます。

ちなみに、苫多地区は12世帯、門静地区は23世帯の現在の地区の共聴組合を光ケーブルのほうに組み入れるというものでございます。

●委員長（竹田委員） 5番、南谷委員。

●南谷委員 門静が23ですか、今言ったのは。苫多が12件、全部で35件。

それで、ちょっとお尋ねするのですが、以前からその要望があったと思うのですよね、ここの地区で。きっと実現すれば、皆さん感謝をされると思うのですけれども、個人負担というのはあるのでしょうか、発生するのでしょうか。どうなのでしょう。

●委員長（竹田委員） 危機対策室長。

●危機対策室長（四戸岸室長） これまでの共聴の巻き取り事業におきましても、それぞれの住宅に設置する器械があるのですけれども、そちらのほうは個人負担を頂いております。この事業を始めたときの当初の時点では、国からの交付金ですとか、そういった部分もありましたので、そういったものは生じておりませんが、その後の追加で行う部分につきましては、そういったことで、これまでも個人負担をいただいできているところでございます。

ちょっと個人負担の額なのですが、今機器とかも値上がりしたりですとか、そういった部分もございまして、たしか2万数千円程度だったかなというふうに認識しているところでございます。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

2目民生債。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目衛生債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 4目農林水産業債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 5目商工債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 6目土木債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 7目消防債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 8目教育債。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 10目臨時財政対策債。
ございませんか。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 以上で、歳入を終わります。
次に、62ページ、歳出に入ります。
休憩します。

午後2時57分休憩

午後3時30分再開

- 委員長（竹田委員） 再開します。
1款1項1目議会費。

(な し)

●委員長（竹田委員） 2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費。
3番、室崎委員。

●室崎委員 ここでお聞きしますが、次の次のページかな、役場庁舎非常用発電設備事業というのが出てきています。この内容について、少し詳しく教えてください。

●委員長（竹田委員） 総務課長。

●総務課長（布施課長） 71ページのですね、非常用発電設備の事業であります。昨年度、基本設計を行いまして、今年度、実施設計を行っております。今の庁舎の非常用発電設備ですが、現状では、消火ポンプと非常用発電設備、あとは放送設備ですね、そこだけが今、発電機で非常時には、先ほどの停電のときも小さな電気がついたと思うのですが、あの程度の今でして、それを更新するというような内容のものです。

それを来年度、新年度として今工事をやろうとしているところなのですが、工事の内容としましては、発電機を入れる上屋といいますか、役場内の今設置している場所には大きさとしてちょっと入らないということですので、役場庁舎の湊石油側ですね、そちらのほうに上屋を建てます。そちらのほうに発電機を設置するような形になります。

その発電機としましては、72時間、庁舎全体の全電力ですね、それを動かせるような大きさの発電機を設置して、停電ですとか、そのときに対応できるようにするというような内容であります。上屋も、4メートル程度の津波には対応できるように、その中に水が入らないようにするような施設で、それと、あとは役場庁舎のほうも、中には電気設備もありますので、そちらも水が入らないような止水を施して対応するというようなことになっております。

その72時間動かすためには、これの燃料は重油であります。重油でありまして、それを72時間動かすとすると、約5,000リッター必要になるのですが、そちらのほうを今役場のボイラーのほうで使っている燃料と併用しまして、そちらの地下埋設が5,500リッターあるものですから1週間、役場庁舎は最高使って2,000リッター使うのですけれども、それで5,500リッターなくなったとして、冬の暖房が一番使っても2,000リッターですので、それとは別に、今回の工事の中でもサービスタンクということで約2,000リッターを造りますので、それと併用すると3日間必要な5,000リッターが確保できるというようなことで、工事を進めるところであります。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 分かりました。

そうすると、まず、こういうものを造るときに一番考えなければならないことは、一つは、津波がここはさらされる場所ですからね、そのときに、ある程度の津波には影響ない場所に造らなければならない。それで4メートルの高さのところに置くと。4メートルの津波程度では大丈夫なところに置くというのが一番正確な言い方かな。どうなのですか。まず、それをちょっと。

それから、発電機を動かすには油が必要だと。それは重油を使うと。その燃料を72時間持たせるとすると、5,000リッターあれば絶対大丈夫ですよと。そういうことですね。そうすると、現在、暖房で5,500リッターかなんかの備蓄はしていると。そうすると、暖房よりも発電のほうがずっと食うのですね、分かりました。

それで、その両方を足して7,000リッター程度のものは常に置いておけるから、これも持つのだと。こういうことでいいのですね。今のお話は。5,000リッターの大タンクのほかにサービスタンクとか何とか入れて2,000リッターを別に造ると言っていたわけでしょう。そうすると、片一方のほうをからからにして投げておいたら別ですよ、そうでなければ、そのところは半分ぐらいになったら足すとかいろいろやっているでしょうから、7,000リッター近く持っていますと、万が一のときにはね、ということが言えるのですということなのですね。

それで、波が来るといふことと、それから油がなくなってしまったということはありませんよと。そういうふうを考えていいのだということですね。そう理解したのだが、それでよろしいのですか。

●委員長（竹田委員） 副町長。

●副町長（石塚副町長） 先ほど総務課長が申し上げさせていただいたのは、委員おっしゃられるように、4メートルの高さに置くということではなくて、4メートル程度の津波の場合は、発電機を置く建屋の防水処理をすることで発電機を守ることができるという構造のものを、まず発電機の建屋として、庁舎の西側に設置させていただくと。それと庁舎の電気室、役場庁舎内にありますので、その扉等を防水扉等に改修をそれぞれ行うという内容になります。

そして、燃料については、重油を採用したという一つの理由に、現在ボイラーは重油で動かしております。先ほど総務課長から答弁させていただきましたが、そのタンクが5,500リッターあると。そのほかに、2,000リットルを超えると管理上の問題とかいろいろ出てきますので、2,000リットルを切る1,950リットルのタンクを増設して、全部で合わせて約7,500リットルを確保すると。そうした場合に、暖房で72時間発電機をフルに動かして、冬の場合、暖房、給湯と両方使用することになりますので、それでも72時間は稼働できるという燃料の計算をしております。

その燃料の補給については、冬場は1か月に1回程度3,500リッター程度給油しているのですが、これを町内の入れているスタンドや油屋のほうと話をしまして、週に1回は給油するということが可能ということで、そういうことで燃料も足りなくならないように確保するというところで事業を進めているところでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 十分配慮してなさっているものということが分かりました。

それで、最後にちょっと1点確認しておきます。発電機並びに電気室については、万が一、水に浸かっても中まで水が入ってこないというような構造にして、大丈夫である

という、4メートル程度の津波で、ある程度水が来ても大丈夫なのだと、そういうことですね。その上にあるというよりは、水が来ても大丈夫なのだと、そういうことですね。タンクについてはどうなのですか。どこに置くのですか。

●委員長（竹田委員） 総務課長。

●総務課長（布施課長） お答えさせていただきます。

サービスタンクとして造る1,950リッターは、発電機を置く建屋の中に一緒にタンクを入れることとなります。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 1,950リッターに関しては無事であると。1,950リッターで72時間は持つのですね。

●委員長（竹田委員） 総務課長。

●総務課長（布施課長） 申し訳ございません。地下タンクのほうも、水が入らないように止水をして、そちらのほうも使って、72時間持つ5,000リッターを確保するということとなります。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 結局、一番おっかないのは、大きく揺すぶられて、その後に津波が来るといことなのですよ。そのときにも、機能できるようなものであることが理想なのですよ。そのために十分な配慮をした施設を造るのだと、そういうことでよろしいわけですね。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） 今、津波の災害についてだけの議論になっておりますが、当然そういうことも心得ております。そのほかに、実はご承知のとおり、BCPと言いまして、業務継続計画が中心なのです。かつて、ご承知のとおり、ブラックアウトありましたね、大きな、停電が何日も続いたと。そういうことも考えながら、今回業務に支障がないように、72時間の発電ができるものを設置しようというのが大きな旨趣なのです。そういう構想ということをご理解いただければと。BCPで出します。よろしくお願ひしたいと思ひます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 業務継続何とかかんとかという、難しいローマ字で言う、それはお聞きしておりました。

それで、一番厳しい状況というのは、単に停電になったときではなくて、大地震が来て、揺すぶられて津波が来たというときが最も大変なときであろうと思ったので、そこだけお聞きしたので。当然この前の大停電のようなときには、こういうものがあれば十分機能するという事は理解しているつもりですので、その意図で、いわゆる業務継続をきちっとしていくということについて理解していないつもりではありませんので、その点は誤解のないように。

それだけで、こういうことがあっては困るのですけれども、万が一のときに十分機能するものを十分に配慮してお願いしたいと、そういうことでございます。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） そういうことを考えながら、今回は予算計上いたしているということでございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

他に、ございませぬか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

72ページ、2目簡易郵便局費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 3目職員厚生費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 4目情報化推進費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 80ページまで進みます。

5目交通安全防犯費。

3番、室崎委員。

●室崎委員 町長の行政執行方針でも触れられておまして、また予算のほうにも自転車交通安全推進で、この内容について、予算の説明のときにもヘルメットの購入というこ

とをおっしゃってくださいまして、大変ありがたいなと思っております。

それで、このところ、何か急に新聞だとか、そういうところで、ヘルメットの話が出始めたのですよね。ですから、厚岸町は先鞭を切っているなということで、改めて頼もしく思いました。

それで、予算のときに、たしか100人ぐらいの、要するに、請求者を見込んでいるというようなふう聞いたのですが、積算根拠ですね。何人でこれだけの予算をつけたかという辺りの見込み、もちろん見込みなのですけれども、その根拠を出していただきたいのですが。

●委員長（竹田委員） 町民課長。

●町民課長（堀部課長） お答えさせていただきます。

予算のことではありますが、令和4年度当初の見込みで、ヘルメットに関しましては1人上限2,000円、掛ける300人と、あと保険のほうは上限1,000円、掛ける300人ということで90万円計上しておりました。

ただ、令和5年度につきましては、実績が大変あれなのですけれども、ヘルメットで1件、保険で2件の実績となっております、それで今回見直しをさせていただいて、ヘルメットにつきましては100人の上限2,000円、それと保険も同じく100人ということで積算をしております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 なかなか一声かけたからと、わっと来るような種類のものではないというふうに理解しております。それで、最初300人というふうに目標を立ててみたけれども、実際はその程度の人数で終わってしまったということだと思っておりますが、今回100というものを立てて、これだって、今までの実績からいうと相当厳しいですよ。

少しでも目標に近づけるために、具体的にどういうことを行うのかという、それについては、何か今腹づもりがありますか。

●委員長（竹田委員） 町民課長。

●町民課長（堀部課長） お答えいたします。

その100人に目標を立てているという状況ではありますが、今後、令和4年度の時も同じことだったのですけれども、小中学校とかにも周知はさせていただいて、また、自転車の販売店のところに行ったりとか、あとは講習会もやっているところなのですけれども、去年の9月にロータリークラブのところに出向いていきまして、自転車の安全運転利用ということの講習会等も行ってきました。そういうことも踏まえまして、そういうところを今後増やしていきたいなということでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 今、答弁の中にもちょっと出ていたのですが、学校という問題ですね。それで、教育委員会のほうでも、ヘルメットに関して今までの考えを少し変えていかなければならないのではないかというようなことについては、議会で多少の指摘はしたつもりなのですが、この後、教育委員会側として、このヘルメット、保険等の自転車の交通安全ですね、これについてはどのようなお考えでいますか。

●委員長（竹田委員） 管理課長。

●教委管理課長（田崎課長） まず、ヘルメットの努力義務化ということで、本年4月1日からということだと認識しておりました。

さきの議会でも委員のほうとこのヘルメットの関係については、いろいろとお話をさせていただきまして、教育委員会といたしましては、その後すぐに、各学校長が集まる定例教育委員会、毎月1回やっておりますけれども、この中でヘルメットの着用の問題について投げかけもさせてもらっていると。

かつ、次年度になりますけれども、4月の始業式の段階、もちろん新入児童ももちろん来るから入学式にも当てはまるのですけれども、そのタイミングで教育委員会のほうで、どうしてヘルメットが必要なのか、小さい子どもに対して必要なのか、法律が改正になっていると。かつ、町での事業の説明、今回の町民課のほうの補助事業、これらも併せたリーフレットを作成して配布するというようなことで今準備を進めております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 分かりました。よろしくお願ひしたい。

それで改めて確認しますが、この補助金ですね、これは今、教育委員会のほうでそのように学校の児童生徒に対してリーフレットやそういうもので周知したときに、それではうちでもと言った場合には、それも対象になりますか。

●委員長（竹田委員） 町民課長。

●町民課長（堀部課長） お答えいたします。

この補助制度につきましては、小学校で行う安全講習、それも該当になってございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 よろしくお願ひします。

そういうわけで、町民課と教育委員会との間で綿密な連絡を取って、1人でも多くの人がそういう助成も利用して、負担を少しでも軽減して、なおかつ自分の体も守るといような状況をつくっていくように、どうかよろしくお願ひしたい。いかがでしょう。

●委員長（竹田委員） 町民課長。

●町民課長（堀部課長） お答えいたします。

教育委員会のほうと連携を取りながら、取り進めてまいりたいと考えております。

●委員長（竹田委員） 管理課長。

●教委管理課長（田崎課長） 町民課のほうと連携をしっかりと取りながら、制度の推進を進めていきたいというふうに考えております。

●委員長（竹田委員） 他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

6目行政管理費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 7目文書広報費。

（な し）

●委員長（竹田委員） 8目財政管理費。

3番、室崎委員。

●室崎委員 ここにですね、北海道市町村備荒資金組合500万円というふうに出ているのですが、たしか備荒資金組合の積立てには2種類あって、それで、ちょっと今、名前すぐ思い出せないのだけれども、自由に積み立てられる部分と義務として積立てる部分とあったはずですよ。それで、この500万円というのはどっちなのか。

それから、義務として積み立てるのは、ある金額にいったらもう積み立てなくてもよかつたのではないかと。それで、たしか厚岸町は、もうそこまでいっているのではないかとというふうに思っていたのですが、その辺り含めて、ちょっと説明してください。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

まず、こちらの予算計上しております500万円、これは普通納付金ということで500万円でございます。自由に出し入れできるというのは、超過納付金ということでございま

す。

普通納付金につきましては、これは、委員言われるとおり、一定条件になりますと、そこでは自由にさせていただくということになるのですが、普通納付金のほうにつきましては、1億円というのがまず限度額でございます。うちのほうも、委員言われるように、1億円には達しております。ただ、普通納付金ということで、これは災害になった場合に使う交付金でもありますので、これらの例年500万円をそのまま例年計上させていただいて、納付金として北海道市町村備荒資金組合のほうに納付しているということでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 前に聞いたとき、普通納付に関しては、もう義務はないのだという話は聞いた記憶があるのですよね。あとは超過納付だけだというふうに言っていたのですが、超過納付で入れようと普通納付で入れようと、入っているお金に色がついているわけではないから、災害のときには一種の無尽ですよね。みんなを出しておいて、必要な人が借りるというやつね。それで使われていくわけでしょう。

普通納付で入れてしまったら、万が一何かが必要になっても下ろせないですよね。1億円を超えているときの普通納付は、超過納付と同じような扱いになるのですか。何で義務なくなったものに、わざわざ普通納付で入れるのですか。その辺りもうちょっと説明してください。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

超過納付金、要は、自由に出し入れできるのは、結局は災害だけに限らず、例えば一時的に資金が不足になったとか、こういう事業に使うだとかとなりますと、こちらの超可納付金、令和2年度でいきますと、新型コロナの関係でこの超過納付金を活用させていただきました。

こちらのほうの普通納付金500万円は、あくまでも災害の特化したものでございますので、こちらのほうの災害に備えといたらあれですけども、1億円の限度はあるものの、やはり災害への備えということで、私たちも500万円を例年納付しているということでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 ちょっと解せないですね、その説明は。

だって普通納付は、災害以外に使えないというだけのことですよ。超過納付は何にでも使えるから、もちろん災害に使えるわけですよ。なおかつ備荒資金組合の性質からいったら、第一に置くものは災害ですよ。そうでしょう。そうすると、わざわざ何も縛りのあるところにですね、それ以外には使えなくなってしまうところに積立てなく

てもいいのではないですか。超過納付でもって納付しておいても災害に使えるわけですから、災害のために持っていますよということは堂々と胸張って言えるのではないですか。

何で、いわば無尽でいうと、あんたこれだけ出しなさいということが、義務としてそれぞれが認め合って、これたしか、財政規模だとか、いろいろな要素によって、その町によって、義務の普通納付のこれだけのというのは違うはずですよ。釧路市や札幌市になると物すごく大きいと思いますけれども、それで出し合っている。そのほかに、なおかつ超過納付というものを出してあげればありがたいということでしょう。

何で、もう既に義務の額に達しているのに、普通納付をして、災害に備えるのだと言わなければならないのですか。そここのところの説明がないですね。

●委員長（竹田委員） 休憩します。

午後 3 時57分休憩

午後 4 時07分再開

●委員長（竹田委員） 再開します。

総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 大変貴重な時間を費やしまして、申し訳ございません。

まず、こちらの普通納付でございますが、災害と言いましても、例えば水害、風害、要は風ですね、冷害、また震災、いろいろなものに使えるということでもございます。また、いろいろと側溝だとかの整備にも使えるということが、要はそういったいろいろな災害に対して支消金が使えるということでもございます。1億円を超えてこちらを納付していたというのは、こういった災害に対応するために、これはこちらの申出で、1億円を超えた場合は申出をすると500万円ずつ納付ができるということでもございます。

それと、やはりいろいろな災害、今は千島海溝、または自然災害の備えた、その備えというものも必要なのかなと思っています。そういった中では、こちらの部分であります。運用という意味では、普通納付金と超過納付金がありますが、北海道内全体で運用しているとなります。そういった中での金利の違いもありまして、普通納付でいきますと1%、超過納付金でいきますと0.5%ということで、やはりこちらのお金のほうも有利な部分で進めさせていただきまして、将来の災害に備えたいということで、例年の500万円を納付しているというところでもございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 いろいろとおっしゃっているけれども、結局のところは、同じ積立てた金でも0.5%金利が高くなるから、それで金利の高いほうを選んだのだと、そういうことですね。

超過納付は、要するに、隠れ財調なのですよね、早く言えば。いい、悪い、言っていないからね。だから、悪く取れば隠し金だし、悪く取ればへそくりなのですよ。出てこないのだから、財政指標にね。それは、前にも私、指摘していたでしょう。だから、ただ積み立てる場所としては便利なところだから、それで超過納付を使っていると、こういう話でしたよね。

何が便利かという、財調基金と同じで、何かどうしても必要なときには、理由のいかんを問わず下ろせるわけですよ。そうですね。その中に、災害のときというのはもちろん入るわけですよ。風害だろうが、水害だろうが、地震だろうが、津波だろうが、そんなことは関係ないですよ。そうですね、縛りがない。

ところが、普通納付になると、これこれこういう災害のときに、あと何か、ちょこちょこっと今言った中にはプラスアルファあったようですが、要するに、この枠の中のもので下ろすことができる。下ろすというよりも、普通納付で1億円入れているから1億円下ろしますよという話ではないですね。あれは、もうみんな溶け込んでしまうものだから、だから私、前から無尽だと言っているわけでしょう。

そういうみんながため込んでプールしてあるお金で、全道の市町村全部が一遍に災害になることはあり得ないわけですから、災害の起きた必要なところに出していこうやということですよ。だから、それを勝手に下ろされたら困るのですよ。だから下ろせなくしてしまっているわけですね、基本的に。

そうするとね、0.5%の金利の違いだから、町の大事な財源を縛りのかかるところにどんどん入れていくのがいいのか、それとも、万が一のときには、道独自の判断で引き出して使えるところに置くのがいいのかという財政運用の問題になりますね。いかがでしょう。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

財政運用の問題ということで、今すぐこのお金を使うというものであれば、財政調整基金ないしほかの目的の基金に積みさせていただくということでございます。

この備荒資金組合の超過納付金、普通納付金のメリットは、やはり利率が高いというのが一番のメリットだと思っております。そういった中では、今すぐ使うお金ではないけれども、やはり備えをしなければならない。これを利率のいいところに運用させていただきたい。やはり町民の、要は税金から預かったのを有効的に活用する。これも私たちの仕事だと思っております。そういった中では、備荒資金の有効活用ということで、こちらのほうの納付を、これは下ろすときも積むときも予算計上させていただいて、議会の議決をいただいて納付をさせていただいたということでございます。

そういった中では、今後もこの500万円は備えということで、私たちは、できましたら納付金を続けさせていただきたい。また、使うものにつきましては、普通の基金で活用して運用をしていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 今の話、論理矛盾が出ましたね。あなた、積むときも下ろすときもと言いました。普通納付金は下ろせるのですか。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 普通納付金も、その災害、その支消があった際には、普通納付金も下ろせるということでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 普通納付金を下ろすのではなくて、プールされた全体の中から災害に必要な部分を借り入れるのではなかったですか。自分はこれだけ入れてあるから、この分下ろすよと言えるのですか。その点はっきりさせてください。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） 明確にさせていただきたいと思います。

今、私も規約を読まさせていただきました、改めて。そういう中で、今、室崎委員が質問していることも分かります。

これは、規約の17条です。17条には、組合市町村において、次に該当する事由が発生したときは支消できるというものは、今言った災害です。しかし、今度は16条、17条の規定にもかかわらず、何時にてもその返還を組合員は求めることができるということになっていますので、何か市町村がですね、組合員ですね、要するに、組合員というのは179市町村の構成です。その一つが厚岸町です。ですから、組合員がいつでも返還を求めることができるという規約上の取決めがありますので、ですから、確かに基準は災害ですけれども、何かあった場合、町で使うことができると、いつでもです。そういう規約になっていますので、その点ご理解いただきたいと思います。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 こんなことでくどくどやる気なかったのですけれども、ちょっとはっきりさせなければならぬ。今の町長言っているのは、超過納付金の話でしょう。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） これは、納付に対する返還です。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 休憩してください、すみません。

●委員長（竹田委員） 休憩します。

午後 4 時17分休憩

午後 4 時20分再開

●委員長（竹田委員） 再開します。

3 番、室崎委員。

●室崎委員 今いろいろと話を伺いました。そうすると、備荒資金組合の納付金というのには、普通納付と超過納付があると。それで、普通納付には、この額までは積立てなさいという義務があると、組合員にはね。それが厚岸町は1億円であると。その1億円は超えたと。しかし、今積み立てているのは、普通納付の額を増やしておけば、万が一というときに受けるお金、それが普通納付金の2倍とか、何か率があるようだけれども、そこまでできるので、今の義務1億円よりは増やしておいたほうが万が一というときには、なお役に立つであろうというふうに考えたから、義務はもう果たしているけれども積み立てるのだと、そういうことですね。分かりました。

私の今言っていることが、そのとおりかどうか、ちょっと補足があればしてください。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 大変申し訳ございません。担当者として説明不足だということでございます。

やはり委員おっしゃるとおりでございます。普通納付金は、現在高の2倍まで支消が可能だということでございますので、先ほど利率とは申したのですけれども、一番のメリットは、災害の際にこういった交付金が活用できるというのが一番だと思いますので、利率も合わせた中での備荒資金の普通納付金の運用をさせていただきたいということで、今回の500万円の計上となったということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

8 目、他にございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、進みます。

9 目会計管理費。

(な し)

- 委員長（竹田委員） 10目企画費。

8番、金子委員。

- 金子委員 10目企画費の93ページ、090、地域おこし協力隊についてお尋ねします。

執行方針にも書いていた、新たな協力隊の募集を行うということも書いていまして、今年度の協力隊を募集採用する詳細をお伺いしたいなと思います。

- 委員長（竹田委員） 総合政策課長。

- 総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

新しい地域おこし協力隊のこちら2名であります。まず、これは令和4年度にも新規募集をした介護人材の確保を目指す隊員ということでございます。こちら、令和4年度に募集をかけまして、募集は来るのですが、書類選考のほうで落とさせていただいたということでございます。そういった中では、やはり介護人材の不足というのが、ケアマネージャーであります。これがやはり当町では必要だということで、これは引き続き令和5年度も隊員として募集をかけさせていただきたいというのが、まず1名でございます。

それと、もう1名でございますが、地域環境保全で地域おこしということでございます。こちらのほうは、厚岸湖・別寒辺牛湿原における湿地の重要性や価値を調査研究し、復旧啓活動を行う。要は、水鳥観察館に配置をさせていただきたいということで、この2名の方を令和5年度で地域おこし協力隊として募集をかけさせていただくといった内容でございます。

- 委員長（竹田委員） 8番、金子委員。

- 金子委員 詳細な説明ありがとうございます。

今までにないミッションというか、仕事になる方も募集しているなど今思ひまして、ただ、町内でも協力隊にぜひやってほしいとかいろいろな声はいまだに聞くのですよ。こういうことできないのかとか、やっぱりそういうところもあるので、自分が協力隊やっていたときというのは、6人、7人ぐらい、結構、常時、協力隊はいたのですよ。今現在、活動している方は、多分1名だと思うのですよね。なぜ協力隊の事業が、どんどん人数が少なくなっていくのか。今も募集をするのは2名の今年度の募集だと思うのですが、その辺り何か事情があって、自分がいたときより協力隊の数や募集にあまり力を入れていないとか、募集人数を集めていない何か理由というのは、あるのでしょうか。

- 委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） 地域協力隊でございますが、総務省が決めてたわけでありまして、いい制度だと思います。ところが、今ご指摘がありましたとおり、厚岸町の場合は、実績からすると悪い。これは残念なことです。なぜ悪いのか。それはですね、やはり研修なり技術を磨いて、それを生かして起業起しをするという人と、それ以外に厚岸を定住として自分で仕事をやりたいということですね。そういうことで、当初は非常に私はいいい制度であり、これを生かして厚岸町の定住をしていこうという考え、また起業を起こして産業の振興のために活躍してもらおうという考えていたわけでありまして、私どもが考えた趣旨と、まるで違うような方向に行ってしまう人もいます。金子委員もかつては地域おこしでありましたので、その対象者でありますので、よくお分かりのことと思います。

そういうことで、残念なことに、今の1名の方しか事実上はいないという実態でありますので、今後、厚岸町としましては、地域おこし協力隊の募集に当たっては、やはり過去は過去としても、これからいい方向で厚岸町は募集をしていかなければならないという考えでありますので、このことについては、私としては新年度予算におきましても募集したいという考えであります。しかしながら、私は積極的にそれでは協力隊を募集できるのかという、ちょっと弱気になっていて、過去を反省して。ですから、人材なのです、それは。全ての社会においてもそうなのですが。ですからそういう点で、今後、過去を検証しながら、さらに前向きに協力隊についての募集を考えていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

●委員長（竹田委員） 8番、金子委員。

●金子委員 町長ありがとうございます。町長のおっしゃるとおり、結果的には、協力隊を自分も今まで見て、結果が出ている状況ではないと思うのですよね。ただ、やっぱり何でも問題があって、その問題が解決できない、結果を出せていないと思っておりますので、ぜひ町のほうも、協力隊の悪い、個々の問題ですけれども、個性がある人のほうが田舎は向いているなど正直僕は思いますので、今までの問題等ぜひいろいろ検証していただき、面白い協力隊を発掘していただいて、町を活性化していただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） 先ほども申しましたけれども、何人かは厚岸町に定住している人もいます。おりますが、厚岸町が考えた協力隊の趣旨と、私はですよ、ちょっと違うのではなかろうかなという、定住については大変ありがたいです、こういう時代ですから。そういう点も我々反省をしながら、これからの協力隊に対する募集をどうしていくのか。今ご指摘のとおりでありますので、いろいろと考えていきたいと、そのように考えますのでご理解いただきたいと思っております。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

10目、他にございませんか。

3番、室崎委員。

●室崎委員 10目企画費ですよ。ここでお聞きしますが、町長の町政執行方針の中でも、空き家バンク制度のさらなる周知と云々という言葉が入っていましたが、空き家バンク制度というものはどういうもので、それを周知するというのは、どういう人に対して、どういう方法で周知していくのか。その辺りをもう少し詳しく教えてください。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

空き家バンク制度、こちら令和4年度から実施させていただきましたが、要は、空き家を売りたい方、または空き家を活用してそちらに住みたい方、これをそれぞれ募集いたしまして、町のホームページで公表いたしまして、それをマッチングさせるような仕事でございます。

そういった中では、ちょっとお恥ずかしい話ではありますが、令和4年度は実績はゼロでございました。そういった中では、空き家をどうやって、増え続ける空き家をできれば活用していただきたいということでございます。そういった中では、厚岸町にも不動産業者があったりだとか、そちらのほうにも出向いて、そういう話をさせていただきまして、そういった方の話をこちらのほうにもしていただいたりだとか、やはり周知不足というのも私たちあるのかなと。

やはり空き家バンクはどういうものかというところから町民に周知、またはこれは町民以外の方、例えば厚岸町に住んでいて、もう既に町外に出ておられる方がおります。そういった中では、これから厚岸町が、新年度に入りまして固定資産税の納付書が発送となります。そういった中では、空き家バンク、または空き家の制度、こういったあれを周知させていただいて、空き家バンクを進めていきたいというところでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 そういう程度の話は、何回も議会でも聞きました。

それで、そういう話だけで人は乗ってこないと思うのですよね。リンゴ一つ買うのも、それがおいしいか、ぼけているか、やっぱり見ますよね。ましてや、空き家というのは中古住宅ですよ。それも現役ではなくて、空き家と言えるからには、人が住まなくなっている住宅ですよ。そうすると、外見はきれいだけれども、いいなと思って買ったら、家具を置いたら床が抜けたなどということがあったら困るなということ、みんな思うわけですよ。

品質保証は誰がするのかという問題もありますね。後日、隠れたる瑕疵が出た場合、その責任はどこが取るのかという問題もありますね。そういうものを一つ一つやはり具体的にしていかないと、どんなにいい、安い値段でマッチングして空き家を買った

といっても、3,000円や5,000円で買うものではないでしょう。結構なお金が動くわけで、現実には。売るほうはどんな値段言われても安過ぎますよ。買うほうはどんな値段を言われても高過ぎますよ。それを折り合いつけていくのが売買ですよ。

そういうような具体的ないろいろ起きるであろう問題にどう対処して、要するに、売りたい人、買いたい人のマッチングをきちんとするのかということの具体的な話が何もない中で、今のような抽象論を幾ら言われても、これは恐らく、去年と同じような数字になっていくのではないかなという不安があるのですよ。いや、そうならなければ大いに結構なのですけれどもね。その辺りどうお考えですか。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） この空き家に関しましては、空き家解体する方にも空き家を活用できないだろうか。空き家を解体するということは、もう使えないということでございます。そういった中では、私たちもいろいろと空き家の情報を仕入れるのですが、やはり使える空き家というのは、正直言ってあるのですけれども、委員言われるように、中に家具があるだとか仏壇があるだとかという、そのまま残っていて、そのまま放置されているということが現実問題でございます。

そういった中では、この価値というのは、それぞれがまず幾らで売りたい。この値段を、免許持っている、うちでいきますと業者がありますので、そちらのほうに、これが適正かどうかというのを聞いて、値段ということを決められないわけではないのですが、やはり空き家を進めていく事業の中には、そういった問題をどうやって片づけていくかというのが私たちも足りないところだと思っています。

やはりそういった空き家を売りたい、またはどうしたいという、よくいろいろな釧路市とかもやっているのですが、相談会というのもやっております。そういった中では、そういうような相談会、空き家に困っている、またはそういうような情報をいただくといったような相談会というのもやはり必要ではないだろうかと思っていますところでございますが、なかなか申し訳ございません、これを思っているけれども実施していないだろうということでございますが、そういった中では、これを一つでも進めていく上では、そういったこともやりながら、空き家を少しでも減らしていくことを進めていかなければならないと思っていますところでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 いかにも実際の場合を知っているようなふうにとられると、大変私も恥ずかしい話で、私もよく分からないのです。分からないなりに想像して言っているのですが。

経験というほどではないのですが、私の知り合いだとかいろいろなところの話で、何回かぶつかったのは、裁判で競売にかかって、それを裁判所に行ってお金を払って落とすと言うのですけれども、これを素人のやった事案というのに何回かぶつかっている。そうすると、今、課長がおっしゃったように、お金を払って「はい、あなたのものですよ」と言うまで、裁判所は鍵をくれないのですよ。それで、それまでは裁判所の書類で

見ていたわけですね。それで現場に行ったのです、鍵をもらって。開けて中に入ったら、仏壇があって、卒塔婆があって、気持ち悪くて、いられなかったと。こういうような事案で、そうなるから相談を受けたこともあります。現実にはそういうことが幾つもあるのですよ。

世の中ではどうするかというと、そういうときに、いわゆる不動産屋、宅地建物取引主任という資格を持っている業者です。その人が競売物件を代わりに落とすのです。そして、クリーニングと言うらしいのですけれども、そういうようなこと、それから現実にそこに人が住んでいることもあるわけですね、競売なんかの場合には。そういう人たちには出てもらう。そういうことを全部やって、そこが使えるようにするところまでしてくれるわけですね。それをやらないと、素人はおっかなくて手を出せないよという話も聞いています。空き家の場合には、住んでいるということがあったら空き家ではないのですけれども、逆に今度は、物件の傷みということに関しては、相当に綿密に考えなければなりませんね。そうすると、そこでまた違ったいろいろな具体事例があるのだと思うのです。

そういうようなものを知っているのは、やっぱり専門家ですよ。そうすると、その人にやってもらえというのではないですよ。専門家、例えば釧路なら宅建協会などというのがあります。そして、そういう専門家の人たちの団体があります。そういうような、ほかにも弁護士ももちろんでしょうし、いろいろと関連する専門家、そういう人たちの意見というのをに入れて、じっくりとかかからないと、なかなかテレビ辺りでもって、うまくきれいな話が出てくるのですが、あれはテレビ画面の上のことだと思って、現実にはお金の絡むことですから、大変だと思うのです。

その辺りを、なかなかこれはそういう場面をよく知っている、修羅場をくぐった人でないと分からないと思うので、そういうことを十分入れながら、何とかひとつ、当初狙っているような方向に物事が進んでいくようお願いしたいわけです。いかがでしょうか。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

委員言われるとおり、やはり法律がありまして、私たちも個人の所有物に対して簡単に物事が進むわけではございません。そういった中では、いろいろな事例、いい事例もあれば、悪い事例、これもいろいろと調べたり、聞いたり、専門家をお願いをしたりだとか、意見を聞いたりだとかしなければなりません。そういった中では、空き家という部分は慎重に進めなければならないと思います。

そういった中では、町のほうにも顧問弁護士、またはそういうような宅建協会釧路もあります。また、町には空き家対策協議会も設置しております。そういった中にもこういった案件をぶつけさせていただきまして、一緒に考えさせていただいて、町の空き家対策を進めていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 次に、北海道くしろ地域・東京特別区交流推進というのがありますが、これは具体的にどんなことをやっているのでしょうか。厚岸町と東京の特別区の交流かなと思ったら、そうではなくて、くしろ地域というふうになっているもので、ちょっと違うのかなと思ひまして、これを教えていただきたいのですが。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

これは、平成27年度から事業を行っておりますが、北海道町村会が東京23区の区長会との連携ということで、総合経済交流の拡大に取り組むということでこちらを進めてまいりました。釧路町村会といたしましては、東京都の荒川区との連携ということで、首都圏と釧路地域間、要は、釧路市含めて市町村で取り組んでいる事業でございます。これは7町村でございます。

具体的にいきますと、荒川区との令和5年度の事業でございますが、釧路地域の魅力を配信するというところで、デジタル情報配信、要は、SNSを使って釧路がどういうところ、また釧路へ行くところというようなものがあるということをもまずデジタルで配信する。それと、交流促進のプロモーションということで、釧路市の地域の魅力、観光のPRを行うということで、荒川区でも日暮里駅だとかというところにも釧路の魅力を配信するブースをそこに設置いたしまして、パンフレットまた映像だとかを流すということです。それと釧路地域の魅力体験ということで、荒川区民が釧路市を訪問するようなそういうような体験ツアーを実施してはどうかということで、今回この三つが釧路地域と荒川区との連携という事業を進めさせていただくといった内容でございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 どうも聞いていると、ほかのことでもよくそういうことがあるのですけれども、釧路が荒川とお話をして握手しているときに、厚岸は、後ろのほうに並んでぺこっとひとつ頭下げてきましたという程度のように聞こえるのだけでも、そういうことですか。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） こちらは、釧路市だけが釧路地域ではございません。もちろん釧路市と厚岸も同等で、同じ立場で荒川区にPRするといった内容でございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 というわけで、具体的にどういうことをやっている。

●委員長（竹田委員） 町長。

●町長（若狭町長） 町村会でありますので、私もその一員でありますので、私から答弁させていただきますが、実は、今、室崎委員から質問あった一部分も、私感じたのです。それで、釧路市中心でないかと。釧路圏域の大きな課題として取り組んでもらいたいということを、不満を腹に持ちながら、強い勢いで訴えたことがあります。一部においては、そういうこともあるやに承りました、3か所の中から。

そういうことのないように、今年は11月に予定しておりますが、荒川区と。ですから、そういうご指摘があるとすれば、私も一時そういうふう感じたことがありますので、今後そういうことがないように、より効果のある、やはりお金が伴う問題でありますので、反省の中で有効なものにしていきたいと、そのように考えておりますのでご理解いただきたいと思います。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

●室崎委員 ごめんなさい。もう1点あります。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 私と全く同じ考えで町長がいい答弁をしてくれたので、すっかり嬉しくなってしまうので、次の質問をするのを忘れてしまいました。すみません。

国際地域交流というのがあるのですね。そこで、提案理由説明のときに、クラレンス市の云々というようなことをおっしゃっていたと思うので、この内容をちょっと説明してください。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

厚岸町とクラレンス市、これが昨年であります。令和4年度4月において40周年を迎えたということで、この事業を令和4年度でさせていただきました。これは、みんな考える国際交流プロジェクトということで、まず厚岸町のほうで、末広海岸のところに国際交流の看板があったのですが、これが老朽化で、こちらのほうは新しいのしなければならぬということで、令和4年度の事業で看板のほうを製作させていただきました。

この看板を作る際に、国際プロジェクトということで、町民皆さんに参加していただいて、どういったものを作るかということをお皆さんで考えてはどうかということの事業を令和4年度でさせていただきました。その際には、翔洋高校の生徒も参加いただき、また厚岸町とオーストラリアの子ども交流に行った方も参加して、看板をメインにどういった看板を作ったら皆さんに見ていただくかというのをグループワークさせていただきました。その際に、看板の部分と、どうやってこれを今後厚岸町とクラレンスの交流

をつなげていくか、皆さんのご意見をいただいて、シートに作って、それぞれ班に分かれながら発表したというところでございます。

その中に、町民の中にも、なぜオーストラリア・クラレンス市と姉妹都市を組んでいるかということが分からない方もいるのではないかというようなご意見も正直言ってありました。そういった中で、広報誌の部分にも半ページであります、厚岸町とオーストラリア・クラレンス市が40周年を迎えたということの記事と年表をつけて、経過も周知させていただきました。

その際に、多くの方に、姉妹都市ということはどういった経過をしているかという部分を周知するには、まず子どもたちから興味を持っていただければどうかということで、今回作った看板のデザインを、小学校の給食のときの敷物というのですか、ランチヨンマットと言うのですけれども、それを作って、オーストラリアと厚岸町がこういった経過で姉妹都市を組んでいるのだということを、今回、引き続きこの事業をやっているやということで内部で話しまして、その消耗品を今回計上させていただいた内容だということでございます。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

●室崎委員 分かりました。国際交流といって、看板1枚立てて終わりというのでは決してないということですね。それで、非常に意を強くしました。

それで、この機会だからちょっと言わせてもらいますけれども、たしかイーモント号というものの残骸は、そこの海事記念館に入っているでしょう。あれがきっかけの事件のようですね。その船は、国泰寺の日鑑記に当時の模様が記載されているのですね。

それを見ると、ユニオンジャックが書かれているのです。大英帝国の国旗ですよ。それで、歴史家、いろいろな研究者が、イギリスを一生懸命調べただけけれども、そんな船はないということで、謎の沈没船と言ったかな、そんなような言われ方をしていたのだそうです。それをたしか、遠藤雅子さんとおっしゃったかな、その方がもしかしたら大英帝国連邦のほかの国のものかもしれないというふうに思って調べたら、オーストラリア船籍、それもタスマニア船籍の船が見つかったというところから、クラレンス、寄港地である、その辺りまだ詳しく言うといろいろあるようですけれども、寄港地であるクラレンスと厚岸町がその縁で友好都市になったというふうに伺いました。

今、遠藤さんという方、ご存命かどうか分からないのですが、ずっと厚岸町とは何らかの連絡は取れているのですか。いわば、井戸を掘った人ですよ。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 遠藤雅子さんでございますが、謎の異国船ということでございます。この方とは、今までも、申し訳ございません、ちょっと私の知る限りでは、そういうような交流、また連絡等は取ったことはないということで記憶しております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。

- 室崎委員　それで、その後、タスマニアをこちら側からも訪問しているし、向こうからも訪問を受けているのですが、その訪問の中で、厚岸町のカキの養殖方法、シングルシードの基礎になるものの技術を、向こうで、日本ではやっていなかった技術らしいのですが、それを得ることができた。それを発展させて今の厚岸町のカキの養殖というものができているということもあります。そういう瓢箪から駒とっては失礼なのだけれども、最初に友好都市を結んだときに、そんなことは誰も考えていなかったようなものが、そこから生まれてきているわけですね。そういうふうに、別に利害打算で言っているわけではないのですけれども、そういうようなものもあったと。ですから、やっぱりこれからも大事にしていかなければならない友好都市だと思うのです。

向こうからも何年に一遍か来る、こっちからは毎年のようにホームステイをするアイリスの会と言ったかな、そういう民間団体を作ってやっていたよね。だけれども、その中心になっていた方も、もうお年召されて、お二人のうちお一人は亡くなってしまいましたが、どういう形にするか。その後、教育委員会が引き継ぐような格好になっているようだけれども、これもコロナでずっと沙汰済みですよ。コロナのほうもある程度落ち着いてくると思われるので、そういうことを含めて、この後どういうふうにしていくのか。相手方との交流ですよ、それをどのようにしていくのか。明日すぐやります、あさってすぐやりますではないにしても、この後どうするのかというようなことについての概略の方針のようなものは出していますか。

- 委員長（竹田委員）　休憩します。

午後 4 時56分休憩

午後 4 時57分再開

- 委員長（竹田委員）　再開します。

ただいまの10目企画費、室崎委員の質問に対しての答弁、この目が終わるまで委員会を進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

町長。

- 町長（若狭町長）　お答えをさせていただきます。

確かにこの交流ですね、残念なことに、コロナでなかなか進まないという現在ではありますが、しかしながら、コロナ前におきましては子ども交流、これ隔年ではありますが、お互いの子ども方が交流していたと。これはアイリスのおかげなのです。しかしながら、アイリスは、もうそろそろ私ども手を離したいと。ぜひ町でやってくれないかというお話もありまして、実行委員会を設置しまして、進めております。これは進めてまいります。またコロナが落ち着いた後、いろいろとまた計画を立てていかなければならないと思っております。

また、クラレンスとのお付き合いの中で、厚岸は大変産業的にもいい効果を生んでい

るわけでありまして。先ほどお話がありましたとおり、シングルシード、これはもう厚岸町、日本では初めての養殖方法であります。これが成功して、現在のカキえもんがあるということについては、既にお話があったとおりなのです。それと現在、カキ養殖のかごというのですか、あれもオーストラリアの公式なのです。

そういうことで、いろいろといい面を学んでいるという成果もありますので、これは続けていかねばならないし、また看板を40年を記念として立派なものにいたしました。特に、あそこは今、道路整備をしていますので、今は産業道路であります、その整備とともに、バスが通れる観光振興ということであれば、あそこは通り道で、人の出入りが多くなるということで、クラレンスという問題に対しまして、認識を高めてもらおうと。また、当然、厚岸住民も40年も経つと薄れているのではなかろうかということで、初心に戻って交流の意義というものを伝承していかなければならないと。そういうことをいろいろ考えておりますので、今ご指摘ありました点について、より効果のあるオーストラリア・クラレンスとの交流、これを考えていきたいというふうに考えていますので、ご理解いただきたいと思っております。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長、何かありますか。

総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 全部、町長の言うとおりでございますけれども、やはり町長言うように交流の意義、これを私たちが薄れないように、これを引き継いでいくのが大事だということでございますので、まずは、今回始めさせていただきます小中学校に、ここの給食の際のランチョンマット、これでまずは厚岸町とオーストラリア・クラレンス市との交流がこういうふうに始まったということ、やはり子どもたちから私たちが周知をさせていただければと。

それとまた、新たにいろいろな事業を考えながら、たくさんの方、これは町民もそうであります。そういった中では、ちょっと今すぐ、そうしたら事業どういふのをやるのだと言われれば、今すぐ出てきませんが、考えながら、オーストラリアと厚岸町の、引き続き姉妹都市を進めるということで、交流担当として強く意思を持ちながら事業のほうを進めてまいりたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

●委員長（竹田委員） 3番、室崎委員。こっち

●室崎委員 今の町長の話にも出ていた交流団をこちらから出していましたよね。あれもアイリスの会がやっていたのだけれども、今、町がと言うけれども、実質的には教育委員会が中心になってやってきていますね。教育委員会として、コロナも下火になってきて落ち着いたら、これはまた再開しようというふうに考えていますか。

●委員長（竹田委員） 生涯学習課長。

●教委生涯学習課長（川越課長） 町のほうと歩調を合わせ、青少年、小中学生、子ども

の育成という部分で、私どもその部分を担っている部分がございます。他の事業もそうですが、新型コロナウイルスの関係が収まったら、ぜひとも子どもたちにそういう交流をまたやりたいという思いで、私たちも同様に考えているところでございます。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。

10目、他にございませんか。

2番、石澤委員。

●石澤委員 地域おこし協力隊のことなのです。それで、今まで厚岸町の場合は、こういう人に来てほしいとかというふうに限定してきていたような気がするのですが、今酪農の後継者の問題がありまして、ほかの地域でいえば、農業後継者を対象にというのは、結構ずっと見てきたのがあるのですよ。

それで、今回酪農の後継者対策の中に、この地域おこし協力隊というのも加えてもらって、新たに3年間で酪農地域に入ってもらって、その上でいろいろ経験した上で新規就農するか、いろいろあると思うのですが、そういう取組というものは考えられないのかなと思うのですが、いかがですか。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

私どもの地域おこし協力隊を進めるといふところの一つは、定住をしていただくというのがまず大前提であります。これは、3年間地域おこし協力隊ということで隊員で活動していただいて、その後、定住していただくというのが私たちの地域おこし協力隊の募集の大前提であります。

そういった中では、それに、申し訳ございません、マッチするかどうかというのを検討させていただくというところはあるのかなとは思いますが、私たち新規就農対策というのもやっております。そういった中では、募集してもなかなか来ていただくのが難しいというところもございますが、どういった形で地域おこし協力隊でできるのか、もしくは新規就農対策でできるのかということは、担当課と話しながら勉強させていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●委員長（竹田委員） 2番、石澤委員。

●石澤委員 新規就農というか定住です、はっきり言って。そのためにお願いしたいのです。でも、本当に今酪農地帯はすごい大変になってきています。いろいろな意味で離農も増えて、体の調子も悪かったりで離農も増えています。酪農がどういうものであるかということも含めて、一緒に体験をしながら、体験だけで帰ってもらうという気は全くないし、そういう意味では定住ということも大事なので、先ほど言ったように、担当課等含めて前向きに検討してください。それをお願いいたします。

●委員長（竹田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。検討させていただく前提でございますが、やはり一番難しいのは、個人のところに地域おこし協力隊を、要は、これは町費で地域おこし協力隊をやっておりますので、そうなりますと、自分のところも、自分のところということも出てこないとも限りません。そういった中では、どういった形でそういった新規就農、もしくはそういったもので活用できるかというのは、ちょっと研究をさせていただければと思いますので、前向きにということもございますが、なかなかそこは地域おこし協力隊だけに限らず、新規就農対策も併せて考えさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

●委員長（竹田委員） よろしいですか。
他に、ございませんか。

（な し）

●委員長（竹田委員） なければ、本日の会議はこの程度にとどめ、13日月曜日10時頃から審査を再開したいと思います。これにご異議ありませんか。

（異議なし）

●委員長（竹田委員） ご異議なしと認め、よって、本日の委員会は、これにて閉会します。

午後 5 時08分閉会

以上のように会議の次第を記載し、ここに署名する。

令和5年3月10日

令和5年度各会計予算審査特別委員会

委員長